

第4章 道路整備計画の検討

市境道路及び赤松町地区内の新たな道路について具体的な整備内容を検討する。

あわせて、将来必要となる南北横断道路の可能性や赤松通り（辻堂赤羽根線）の将来的整備の方向性について検討する。

これらの計画の検討に当たっては、周辺地区も含めた地区全体の将来交通ネットワークや交通配分を十分考慮する。

1. 市境道路

(1) 基本的な断面構成の検討

基本的な断面構成として3案を設定し、メリット、デメリットを検討した。

案1・3の片側歩道では藤沢市側のみの歩道となるが、この道路の利用者は大半が茅ヶ崎市民の利用者であるため、市民の利便性と安全性を考慮すると、案2の茅ヶ崎市側に歩道を設置する案が望ましい。

表 市境道路の断面構成の検討

		メリット・デメリット
案1 車道幅員約6m(現況)+車道2m(藤沢市側)+歩道状空地2m(藤沢市側)		
	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状の広い車道幅員が確保されるので、自動車は通行し易い。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地と道路面とのすりつけから、車道と段差のある歩道を設置することは難しい。 茅ヶ崎市側は現状のままである。 	
案2 車道幅員6m(双方向通行)+歩道2m(茅ヶ崎市側)+歩道状空地2m(藤沢市側)		
	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 茅ヶ崎市側にも歩道ができるため、安心して歩ける。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地と道路面とのすりつけから、車道と段差のある歩道を設置することは難しい。 茅ヶ崎市側は、車庫、出入り口が連続するので、フラット歩道としても、ところどころ境界石があるだけの歩道になってしまう。 バリアフリー法の有効歩道幅員2mを確保すると、植栽や照明などの路上施設の設置が難しくなる。 藤沢市側との緩衝帯としての機能が弱まる。 	
案3 車道幅員6m(双方向通行)+歩道2m(藤沢市側)+歩道状空地2m(藤沢市側)		
	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩道状空地と合わせて4m幅員の歩道が確保されるので、植栽の配置や電線類の地中化が可能となる。 歩道は藤沢市側に整備されるので、車道と段差のある歩道構造が可能。 歩道から駅前広場まで横断せずにアクセスできる。 藤沢市側との緩衝帯として機能する。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 茅ヶ崎市側は現状のままである。 	

(2) 整備コンセプト

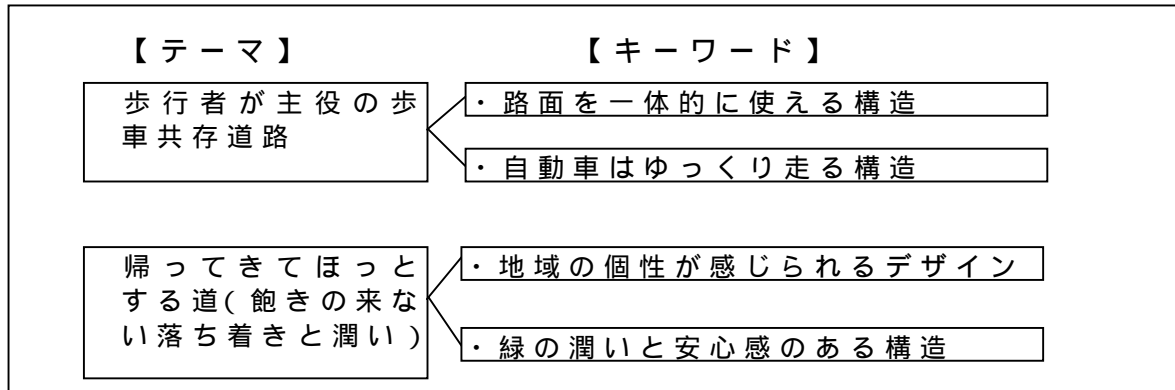
1) コンセプトキーワード

市境道路は、カントク跡地開発地と赤松通りの沿道に挟まれた、地区内道路である。

カントク跡地開発地と赤松通りの沿道は、辻堂駅周辺の商業・業務など、人が集まる場である一方、市境道路は近隣の地域住民のための場として位置づけられる。

この位置関係から、市境道路の整備コンセプトとして2つのテーマを設定するとともに、テーマからデザインに反映するためのキーワードを展開する。

図 市境道路の整備コンセプト



2) 基本構造

展開した整備コンセプトから、基本構造として次の4点を設定し、整備していく。

[基本的な構造]

バリアフリーのフラット歩道

高齢者や障害者も安全に利用できるよう、バリアフリーに配慮したフラット構造とする。

道路を一体利用しやすいポラードによる車どめ

ポラード等による車どめにより、歩行者の安全性を確保するとともに、歩行者が道路横断しやすく一体的に使える構造とする。

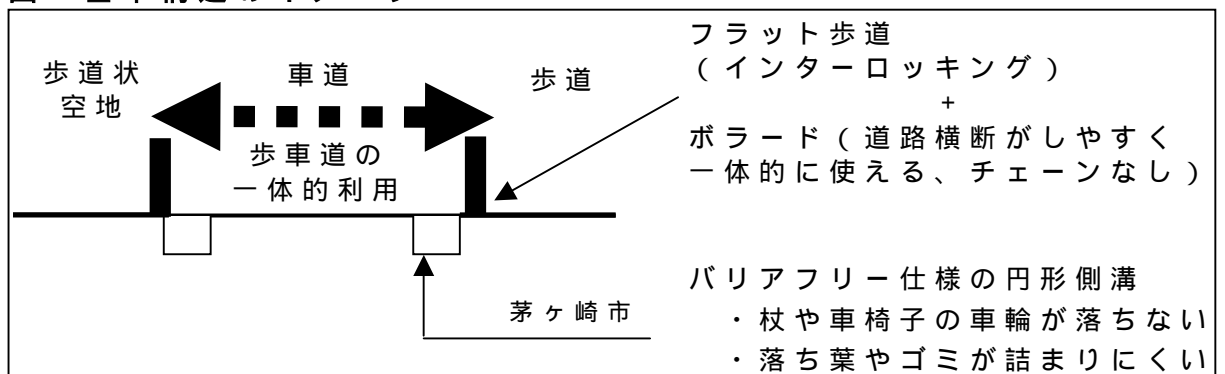
バリアフリー仕様の円形側溝

落ち葉やゴミが詰まりにくく、また、杖や車椅子の車輪が落ちない構造とする。

緑と潤い(ポケットパーク)

ポケットパーク等により緑豊かな潤い空間とする。

図 基本構造のイメージ



上記円形側溝については、茅ヶ崎市側のみの計画イメージです

全体平面図 S=1:1000
(両側歩道プラン)



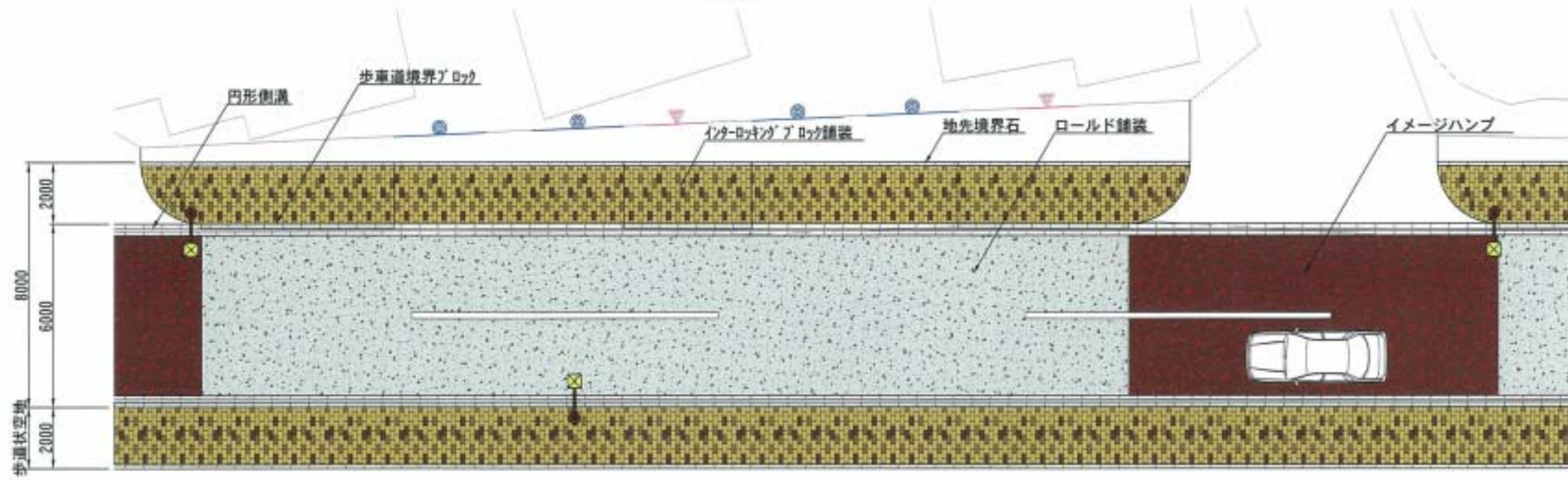
【凡例】

	家屋出入口
	車庫出入口
	車道
	イメージハンプ
	歩道(茅ヶ崎市)
	歩道(藤沢市)

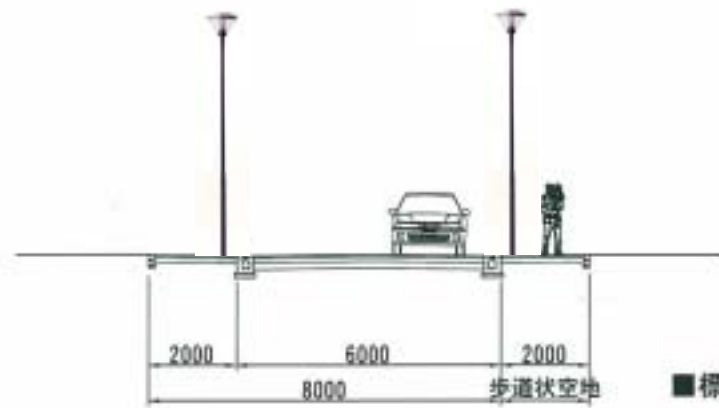


市境道路の整備イメージ

両側歩道プラン



■標準平面図
S=1:150



■標準断面図
S=1:150



■標準立面図
S=1:150

※本図は茅ヶ崎市によるイメージ図であり、関係機関との協議・設計等を行ったものではありません。

【車道舗装】

・修景的に配慮し視覚的に歩道と区分された色合いをとする。(ロード舗装)



◆イメージ写真

【街路樹】

・江戸時代から庶民より武家世界にまで人気が高く、多彩な花を咲かせるごく一般的に広く普及している低木。



◆イメージ写真

【歩道舗装】

・目にやさしい色合いの透水機能を持たせたインターロッキング舗装とする。



◆イメージ写真
(矢畑・萩園線)

【側溝】

・雨水を速やかに排除し、管理が容易、段差が無く人に優しい円形側溝とする。



◆イメージ写真



【街路灯】

・ごく一般的なスッキリとしたデザインで、どんなペーヴメント(舗装材)や植栽ともマッチする照明。



◆イメージ写真

【ポラード】

・歩行者の保護及び車両の歩道駐車防止かつ人の道路横断が可能なものであるポラードとする。



◆イメージ写真

2. 東西・南北路線

(1) 南北路線の必要性

東西方向に国道1号、茅ヶ崎辻堂線、国道134号が位置し、辻堂駅からは放射状に辻堂赤羽根線、小和田辻堂線が整備されている。

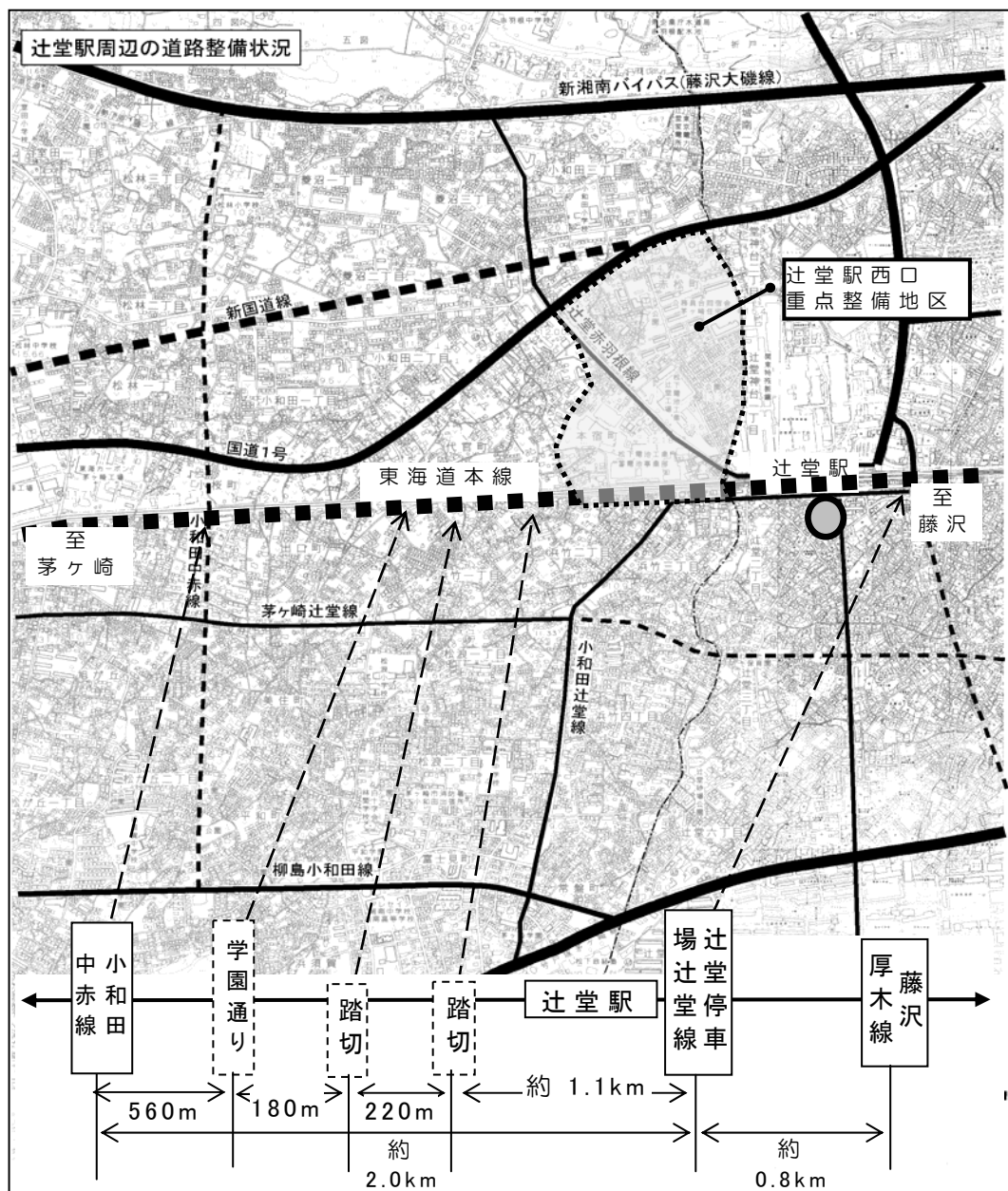
地区の外側に計画されている新国道線、小和田中赤線は未整備となっている。

また、小和田中赤線及び辻堂停車場辻堂線の間隔は、約2kmと離れており、これは、主要な幹線道路の配置間隔として望ましいとされている約1kmを大きく下回った水準となっている。

このため、辻堂駅周辺の南北一体となった市街地形成や辻堂駅及びカントク跡地開発地区への発生集中交通量の円滑な交通処理を図る上で、辻堂駅と小和田中赤線のほぼ中間位置に鉄道を横断する新たな道路が必要と考えられる。

これにより、辻堂駅関連交通や新規開発関連交通及び通過交通等を円滑かつ適正に処理することが可能と考えられる。

図 辻堂駅周辺の道路網と東海道本線を横断する道路の間隔



(2) 線形案のケーススタディ

東西路線（カントク跡地～赤松通り）、南北路線（赤松通り～東海道本線横断）の整備については、代替地や道路用地等の事業用地として大規模な土地の活用が必要であり、今後地権者との折衝を続けながら、現施設の更新時や土地利用転換が生じた時に具体的な手法や線形の検討を行う。

現在の状況におけるスタディ案として、以下のA～G案の検証結果を提示する。

また、現在都市マスタープランの改定中であり、同時に都市計画道路の見直しを検討するため、その際に整合性を図りながら検討を行っていく。

図 線形案のケーススタディ

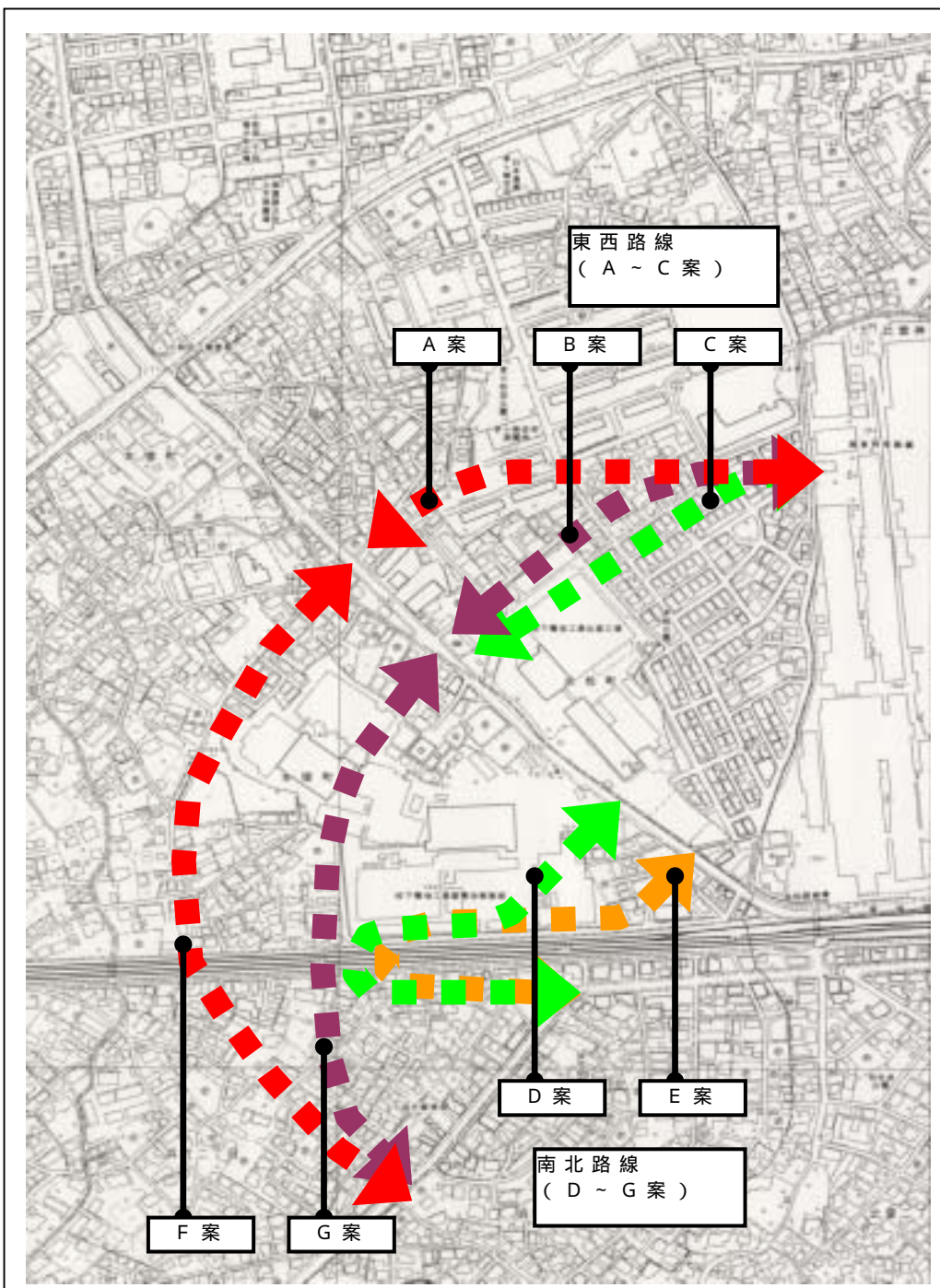


表 スタディ案の評価表

東西路線

	メリット	デメリット
A 案	南北路線の F 案と連続する。	路線長は 3 案の中で最も長くなる。沿道街区に対して斜めに線形が入るため、街区の再建や区画道路のすりつけが課題である。
B 案	既存街区の方向に沿っており、沿道画地や区画道路のすりつけがたやすい。 南北路線の G 案と連続する。	移転戸数が最も多くなる。
C 案	既存街区の方向に沿っており、沿道画地や区画道路のすりつけがたやすい。	工場用地を横断するため、企業との合意形成が課題である。

南北路線

	メリット	デメリット
D 案	影響範囲が線路沿いに限定され、事業費が安価となる。	東西路線と連続せず、道路ネットワークとして著しく円滑性を損なっている。 駅アクセスと南北横断の交通が全て赤松通りに集中する。 工場用地を横断するため、企業との合意形成が課題である。
E 案	影響範囲が線路沿いに限定され、事業費が安価となる。	東西路線と連続せず、道路ネットワークとして著しく円滑性を損なっている。 駅アクセスと南北横断の交通が全て赤松通りに集中する。 工場用地を横断するため、企業との合意形成が課題である。
F 案	東西路線と南北路線が連続し、理想的な道路ネットワークが形成される。 駅アクセスと南北横断交通が分散され、交通の円滑化が図られる。	沿道市街地区間を通る距離が一番長いため、移転戸数が多くなり、地権者との合意形成が課題である。
G 案	東西路線と南北路線が連続し、理想的な道路ネットワークが形成される。 駅アクセスと南北横断交通が分散され、交通の円滑化が図られる。	工場用地を横断するため、企業との合意形成が課題である。

3 . 赤松通り（辻堂赤羽根線）

藤沢市側に接続する初タラ線は、幅員19mで計画されているが、茅ヶ崎市側の赤松通りは、都市計画道路として11mの幅員で整備済みとなっている。

赤松通り（辻堂赤羽根線）は、茅ヶ崎市側から辻堂駅北口にアクセスする主要路線であるが、整備済み都市計画道路であり、自動車走行機能は備えていることから早期の整備は行わず、沿道工場等の施設更新に合わせて歩行者・自転車が安全かつ円滑に利用できるように事業化を検討する。

図 赤松通りの整備方針

